

《履修上の留意事項》状況により、講義の全部または一部を遠隔形式で実施する場合もあるが、その際には別途連絡する。

《担当者名》○中野 倫仁、安部 博史

【概要】

精神疾患に対する薬物療法の実際を学び、心理療法との併用時に留意すべき点を理解することが期待されている。多くの精神疾患患者には薬物療法が行われていることから、副作用が精神症状と誤認されることも少なくない。この科目では、この点が鑑別する上で最小限必要な専門知識を習得することが期待される。

【学修目標】

薬物の生体内での動態と薬理作用を学ぶ。
生体内での情報伝達について説明できる。
代表的精神疾患について使用される薬物の作用と副作用の特徴を理解し、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	向精神薬の薬理作用と薬物動態	一般的な向精神薬の作用機序、用量反応関係について学ぶ。生体における薬物の吸収、分布、代謝、排泄について学ぶ。	安部 博史
2	情報伝達の機序 1	向精神薬の作用機序を理解するための神経生物学的基礎、具体的には以下の項目について学ぶ。 ニューロン、伝導と伝達、シナプス	安部 博史
3	情報伝達の機序 2	向精神薬の作用機序を理解するための神経生物学的基礎、具体的には以下の項目について学ぶ。 神経伝達物質、アゴニスト・アンタゴニスト、受容体、細胞内シグナル伝達	安部 博史
4	薬物依存	薬物嗜癖の神経生物学的機序、具体的には以下の項目について学ぶ。 耐性、退薬症候（離脱）、身体依存、精神依存、大麻・覚醒剤・アルコールなどの嗜癖薬物の作用機序と依存形成	安部 博史
5	抗精神病薬	統合失調症に用いられる薬物を学ぶ。	中野 倫仁
6	抗うつ薬、感情調整薬	うつ病、双極性障害に用いられる薬物を学ぶ。	中野 倫仁
7	抗不安薬、睡眠薬	ベンゾジアゼピン系薬物などの抗不安薬、睡眠薬について学ぶ。	中野 倫仁
8	抗認知症薬、抗てんかん薬	認知症、てんかんなどの器質性疾患に用いられる薬物について学ぶ。	中野 倫仁

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

客観テストおよび小テストで評価する。

【教科書】

必要な資料を配布する。

【参考書】

「脳から始めるこころの理解」（福村出版）

「ストール精神薬理学エッセンシャルズ 神経科学的基礎と応用 第4版」（メディカルサイエンスインターナショナル）

【学修の準備】

配布した資料を復習し、その概要を説明できるようにしておくこと。

予習は、配布資料をよく読み理解に努める。(80分)

復習は、講義の学習内容を確認して理解できない部分はチェックし、参考書で調べるあるいは担当教員に質問する。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

安部博史(国立大学附属病院精神科、臨床心理技術者、公認心理師)

中野倫仁(医師、公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

安部博史:精神科および発達障害者支援センターにおける実務経験を活かし、精神薬理学に関する基礎的な教育内容を可能な限り臨床場面と関連させて解説する。

中野倫仁:実際の症例を提示して、実地臨床のとの関連性について教示する。